

# 東京の産業と教育

## 会の目的

本会は産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校等の産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

## 「モノづくり教育」 「体感できる場が必要」

日刊工業新聞社 社長 井水 治 博



わが国の経済成長はモノづくりが支えてきました。全国各地の製造業集積がきめ細かなサプライチェーンを形成し、世界を支えてきました。3月11日に発生した東日本大震災は多くの企業、工場にも甚大な被害をもたらし、サプライチェーンを分断しましたが、はからずもわが国モノづくりの持つ大きな影響力が示されることにもなりました。資源のない日本が国力を維持するためには、今後も「モノづくり立国」を追求するしかありません。ただ私は、将来の日本を支える若者や子どもたちに対し、モノづくりに関心を持ってもらう教育が十分になされていないのではないかという考えを抱いています。

今の社会、教育のあり方では、子どもたちがモノづくりの現場を実際に見たり触れたりする機会がほとんどありません。親や学校の先生方も製造の現場を知らない人が増えています。自分自身が現場を見て感動していなければ、感動を人に伝えることはできません。学習指導要領に基づいた机上の教育が主流となっている現状では、モノづくりに興味を抱く子どもが減っていくのも自明の理です。

日刊工業新聞社は「モノづくりの総合情報機関」として、モノづくりを様々な面で支援する事業を実施しています。平成19年には大手から中小までモノづくり関連企業で構成する「モノづくり推進会議」を結成、現在約1800社が集まってモノづくりの将来を見据えた活動を展開しています。

モノづくり推進会議の活動の一つとして、大学生

を数十人集めて北海道・東北のモノづくり企業を巡る「情熱紀行 新ものづくり発見ツアー」を実施したことがあります。いずれの企業も規模は大きくありませんが、それぞれの分野で技術を究めた特徴ある企業ばかりです。モノづくりに触れた経験のなかった学生たちがいくつもの企業の現場に入り、究極の技術、経営者や技術者の奥深い言葉を体感していくうちに、学生の心の変化が現れてきます。中には感動して涙を流す学生もいます。ツアーの様相を映像化したDVDからでも、感動が伝わってきます。このDVDを社員の研修・啓発に活用している企業も多くあります。

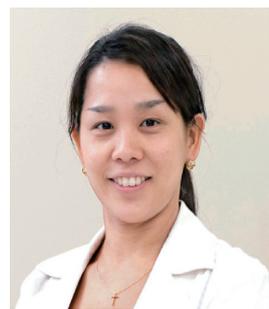
また、子どもたちを対象に自分でモノをつくる楽しさを体験してもらうイベント「モノづくり体感スタジアム」も開催しています。さまざまな業種の企業の出展、協賛を得て、子どもたちが実際にモノづくりに挑戦する趣旨です。どのコーナーにも長蛇の列ができ、目を輝かせながら工作や実験に取り組む子どもたちの姿が印象的でした。

ネット社会の到来で、ともすればバーチャルで安易に物事を理解しようという傾向が強まっています。しかし、例に挙げたように、本物、現場を体験しなければ、本当の理解、感動は得られないのです。モノづくり人材を育てるためには、子どもたちから教育する側の大人まで幅広い層が現場に触れることが必要であり、そのための場を提供していくことが不可欠であると考えています。 (了)

## 福祉クラスにおけるキャリア教育の取り組み

蒲田女子高等学校

教諭 山中 恵



### 1. はじめに

本校は昭和16年、「財団法人簡野育英会蒲田高等女学校」として設立されました。

平成6年に5つのクラス制を導入、将来の夢に合わせたクラスが選択できるようになりました。

高齢化に伴い、介護従事者の存在価値が高まる中、平成13年に社会福祉クラスが誕生しました。その後、看護・医療系への進学希望者の増加を背景に、保健・医療・福祉の関連性への理解を深めることを目的として医療福祉クラスに名称を変更しました。普通科でホームヘルパー2級資格や介護福祉士国家試験受験資格の取得が可能である特色のあるカリキュラムになっています。

### 2. 教育活動

介護福祉士国家試験の合格を目指し、さまざまな専門科目を学んでおります。

#### 〈生活支援技術〉

あらゆる介護場面において共通する基本的な介護の知識・技術・態度を習得します。現場と同じ設備や用具を使用し、食事・入浴・排泄などの介助方法を学びます。1年次はコミュニケーション技法や介護従事者としての基本的態度、2年次は日常生活に関わる基本的な介護技術、3年次は各事例における応用的な介護技術を身につけることを目標としております。

#### 〈こころとからだの理解〉

発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化に関する基礎的な知識を習得します。人体の構造や機能及び人間の心理的側面について学習し、認知症や障害の理解へと発展していきます。

#### 〈介護実習〉

校外施設での介護実習を3年間で59日間行っており、1年次は高齢者施設および障害者施設、2年次は高齢者施設、障害者施設の他、ホームヘルプサービスやグループホーム、3年次は高齢者施設や地域包

括支援センターと実習現場は多岐にわたっています。多様な介護サービスの理解を深め、介護技術の実践力を高めることを目的に段階的に行っております。また、実習終了後は、自己の振り返り学習や実習に関する意見交換の場として実習報告会を実施しています。

### 3. 介護福祉士国家試験受験結果および進路

本校における介護福祉士国家試験の合格率は平成21年度から3年連続100%です。即戦力となる知識や技術を徹底して身につけたことにより達成できた結果であると考えられます。

進路は、福祉現場に就職するものや社会福祉士、看護師などの資格取得を目指し、大学・短大・専門学校に進学するものに分かれます。近年は、医療・看護分野への進学希望者も多く、多面的なアプローチで進路指導を行っています。



特殊浴槽操作の授業風景

### 4. おわりに

福祉クラスは介護福祉士国家試験合格という大きな目標を掲げ、キャリア教育を実践しています。そして、さまざまな資格への挑戦や講義・実技・実習を組み合わせた学習により、社会で活躍するための知識や技術、人間力を身につけます。目まぐるしく変化する社会の中で必要とされる人材を育成するために、幅広い教育活動を継続的に実行していくことが今後も重要であると考えています。

## 「サクセスプランニング」の授業について

東京都立杉並総合高等学校

主幹教諭（進路相談部主任） 藤 本 晋 哉

### 1. はじめに

本校は、平成16年に開校した東京都では3校目の総合学科高校です。総合学科には、「産業社会と人間」という、自己の個性を発見し、将来の生き方を考える教科が置かれています（本校では、サクセスプランニング「サクセス」と呼んでいます）。ここでは、そのサクセスプランニングの授業を中心に、どのようなキャリア教育を行っているかを報告します。

### 2. “近い将来”と“遠い将来”

「サクセス」のうち、1・2年次の前半は、「自分の時間割」を作ることがメインになります。自らの興味や関心・進路希望に基づいて、多くの自由選択科目から、次年度に何を履修するかを決める作業です。そのために、自分が視野に入れている上級学校の入試形態や科目を知らなくてはなりません。これは“近い将来”を考えるとということになります。一方で、種々の職業やその職業に求められる特性・技能・資格等について知ることも必要になります。これは“遠い将来”を考えるとということになります。

「サクセス」は、「近い」と「遠い」の両方を学べるように計画しています。さらに、「卒業生による講話」を通して、真剣に科目選択を考え、真剣に高校生活を送ろうという自覚へと繋げています。

### 3. 「奉仕」「総合的な学習の時間」との連携

1年次の後半は、「奉仕」と連携させて、社会に貢献するという体験を積みます。杉並区の各種NPO団体（児童福祉…2講座、障害者福祉…1講座、環境…4講座、国際ボランティア…1講座、福祉…2講座、合計10講座）に協力していただいて実施しています。

全員が、以上の講座から2講座を選んで体験を積み、最後は発表会を開いて、1年次生徒全員の前で活動内容の報告をしています。

2年次の後半からは、「総合的な学習の時間」と連携させて、「課題研究」に取り組みます。「課題研究」

とは、自ら設定した課題の研究を進める論文（4000字以上が条件）を作成し発表するというもので、「サクセス」の総まとめとも言えるものです。

自分の興味の対象を知り、研究する方法を考え、継続的に取り組む力とプレゼンテーション能力を養うことを目標としています。各講座で発表されたもののうち、特に優秀なものは、12月に行われる「課題研究発表会」で、全校生徒の前での発表が行われます。昨年度は、その成果をAO入試に活かし、国立大学に合格した生徒も出てきています。

### 4. 今後の取組

今年度本校は東京都の重点支援校に指定され、一層の改革に踏み出します。改革の一つとして「サクセス」を担ってきた「研究部」が「進路相談部」と統合されたことにより、より多くの目で「サクセス」の成果と課題を検証し、授業内容の充実を図ることが可能となりました。

たとえば、「サクセス」と進路行事の連携です。1年次対象の上級学校によるガイダンスでは、興味のある職業別に分かれ、その職業の現状と将来性を探求することに加え、その進路に必要な科目選択まで学習します。

また、模擬試験実施後は、「サクセス」として予備校講師による現状分析会を生徒全員対象に実施し、各自の現状分析と以後の学習に向けての動機づけを実施し、個人面談に繋がります。

### 5. おわりに

進学や就職への期待と現実とのミスマッチから、若年層の離職率の高さが問題になっている現在、生徒が高校在学中に上級学校や就職に関する情報をよく検討し、自らの進路について考えを深めることが重要です。総合学科として、「生徒自らの進路選択とその実現」にいっそう注力していきたいと考えています。

## 人を育てる技術・家庭科教育

全日本中学校技術・家庭科研究会 会長

中央区立銀座中学校長 太田達郎



### 1. ものづくり教育と技術・家庭科

現在、科学が急速に進展し、私達の生活は豊かにそして便利になってきました。しかし、今回の震災のような自然災害や安全の問題、エネルギーや環境保全の問題等、これからの人類が解決しなければならない課題は、ますます大きく、重大になっており、かつ迅速な解決が求められています。

こうした問題を解決するためには、理論的な研究と併せて、解決に直接つながる具体としての取り組みが重要です。

技術・家庭科では、技術と生活との関係を踏まえ、生徒がものづくり等を通して問題解決的な学習を行っています。中学校技術・家庭科の目標は次のとおりです。

生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

技術・家庭科は、社会の変化に主体的に対応できる人間の育成を目指して、生徒が生活を自立して営めるようにするとともに、自分なりの工夫を生かして生活を営むことや、学習した事柄を進んで生活の場で活用する能力や態度を育てることをねらいとしています。本教科は、「技術分野」の内容と「家庭分野」の内容に分かれており、「技術分野」では、

ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。

ことを目指しています。

技術・家庭科は、単に製作の方法や技能を身に付けるのではなく、ものづくりを通して、問題解決のための技術の活用やこれからの社会における技術の在り方を学びます。義務教育の9年間において、こうした系統的なものづくり学習を行う教科は、中学

校3年間の技術・家庭科だけであり、今後一層の充実を図る必要があると考えています。しかし、授業時間数を見ると、技術分野、家庭分野のそれぞれが、1・2年生が週1時間、3年生が週0.5時間となっています。製作を通して、技術を評価し、これからの技術と自分の生き方を考える学習としては、決して十分な時間とはいえません。

### 2. 人材育成の課題

近年の知識偏重の教育が、人間が本来もっている問題解決力を支える優れた技術を失わせてはいないでしょうか。原理や理屈を頭で理解しても、問題は何も解決しません。理論に基づき、具体的な方策を考えて製作したり、活用したりする意欲と実践する態度が必要です。そのためには、子どもたちが創意工夫する力、設計する力、製作する力、操作する力、経験に裏付けされた確かな技能等を身に付けることができるようにすることが重要だと考えます。人類が抱えている様々な課題の解決には、こうした力を身に付けた人材の育成が欠かせません。人材の育成は、一朝一夕にできるものではありません。国を挙げての系統的なものづくり教育の推進が、これからの日本を、そして世界を救う人材の育成につながるものと確信しています。

### 3. 第50回 全日本中学校技術・家庭科研究会全国大会(東京大会)並びに関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会

これからの技術・家庭科教育の充実と在り方を考える大会が開催されます。是非ご参加をお願いいたします。

研究主題：「持続可能なよりよい社会、生活をめざす技術・家庭科教育」

期日：平成23年11月10日(木)[全体会・講演会]

会場：大田区産業プラザ PiO

11日(金)[公開授業・分科会]

会場：8分科会、8会場

※詳細は「東京大会 Web ページ」をご覧ください。

<http://www.ajgika.ne.jp/~tokyo/>

## 株式会社エコー

資本金：30,000千円 代表取締役：土屋祐治  
東京都葛飾区新小岩 2-7-4  
TEL 03-3653-7755

## ＜創業＞

昭和35年4月 土屋商事として清掃業を開始。昭和47年6月 株式会社 土屋ビルサービスを設立。従来より建物清掃業を主業務にしてきたが、総合建物管理業への転進を図る。平成5年7月、現在の社名に変更する。

## ＜従業員数・営業拠点＞

130人〈正社員100名・パート30名〉

東京23区内に本社及び3支店(足立、江東、江戸川区)外1支店(三鷹)都外(千葉県市川市)を展開中。

## ＜事業案内＞

本建物内外の清掃業務、設備管理業務、警備受付業務、害虫駆除業務、消火設備保守、運動場等維持管理業務及び廃棄物収集運搬業務を行っております。

## ＜経営理念＞

顧客のニーズと期待を先取りした顧客に愛される

新サービスの開発及び提案を行ない、顧客の要求事項及び法的・規制要求事項を100%満たすサービスを提供し、顧客の評価及び活動の成果を測定・分析し、プロセス及び個別サービスの継続的改善を図っております。そのために、人材の育成に努めております。

## ＜青年へのメッセージ＞

現在当社の業務に関わっている人員の平均年齢は高い水準にあり、業務内容も裏方的な存在であります。しかしながら、昨今、建物の高層化や、インテリジェント化が進み、ベテランと若者の融合を図らなければなりません。皆様の力が必要となるのが、大幅に増えると思います。華やかさはありませんが、皆様を取り囲む環境が、厳しさが増す中、自らの進むべき道を探す時、当社のことを少しでも、思い出していただければと思います。

## 専修学校に学んで～在校生からのメッセージ～

## 中央工学校

木造建築科 2年

## 小野寺良太

## ※ 職業観・将来の夢 ※

私が専門学校に入ろうと思ったきっかけは、中学生の時にテレビで見た熊本城の本丸御殿の復元でした。私は小学生の頃からお城が好きで、その時に見た釘の使用を最小限にとどめて建物を建てる木組みと言われる伝統工法の技術に大変興味を持ちました。

なぜ、私が生まれる遙か昔の建物が今もなお地震などの天災に耐え建っているのか不思議でした。そこで私は高校を卒業したら建築の勉強をしようと考え、中央工学校の木造建築科へ進学することを決め、そして将来は何百年後も建っている建物を造れる大工になろうと決意しました。

しかし、専門学校に入り勉強していくにつれ私の思っていた大工と現在の大工では違うことがわかりました。もともと私は大工という職業は設計士が考えた図面を基に家を丸々一軒建てると思っていたのですが、実際には壁は左官屋、屋根は瓦屋や板金屋などに分けられ、大工は木工事だけで終わってしまうことが残念でした。しかも現在の大工の大半はプレカットや

ツーバイフォーと言われる工法で家を建てています。プレカットとは工場の機械によって加工された木材や板を大工が現場で組み立てていくことで、実際に職人が木材を刻み加工する伝統工法とは出来上がる建物も違ってしまいます。

将来の夢は、自分の手で造る伝統工法の技術を身につけて立派な職人になりたいと思っています。

私は宮城県の出身です。今回の東日本大震災では、地震や津波によって故郷がものすごい被害を受けてしまいました。町や家そしてかけがえのない多くの命を一時にして失ってしまいました。建築業に係わる私にとって故郷の復興は今後の人生の大きな仕事の一つになると思います。その時期のために今は自分がやらなくてはいけないことを一生懸命取り組み、少しでも早く一人前の職人になって故郷の役に立てれば良いと思っています。



## 平成23年度 総会・功労企業表彰 報告

平成23年度総会・功労企業表彰及び講演会が6月17日(金)午後2時から、BIZ 新宿(新宿区立産業会館)・多目的ホールにおいて開催されました。

来賓として(財)産業教育振興中央会専務理事の中山淑廣様、東京都公立高等学校長協会会長の丹藤 浩様(都立竹早高等学校長)、東京都中学校長会副会長の岩立 平様(江戸川区立小岩第五中学校長)をお迎えしました。

開会にあたり、西澤会長から「都産振は、産業界、各学校、都教委の三者が協力して職業関連教育の充実を図ろうとする組織である。普通科偏重の世ですが、地道に産業教育を推進して行きたい。この度の大震災の影響で、日本の産業界がどのように復活していくか、世界の注目を集めている。またこのことに関して産業教育は非常に大変な局面にきていると思う。都教委も被災県に教員を派遣するなど頑張っている姿勢が見られる。当会も会報・会誌や生徒の作文コンクールを通じて、活動を推進していきたいと思う。この総会で忌憚のないご意見等を頂き、会の充実に寄与していきたい。本日はどうぞよろしく。」との挨拶がありました。



挨拶する西澤会長

引き続き、常任理事の直原都立学校教育部長からは次のような挨拶がありました。

「本会は、これまで半世紀以上にわたる活動を通じて、大きな成果を挙げてきた。都教委は新しいタイプの学校の設置を計画的に進め、とりわけ産業教育では、科学技術の進歩・産業構造の変化・国際化や情報化等の進展に対応するため、「科学技術高校」「産業高校」「ビジネスコミュニケーション科」などの専門高校を設置し、都民の多様なニーズに応えてきた。

さらに、学校が企業と連携して生徒を育成するデュアルシステムを複数の工業高校に拡大していく。この度の東日本大震災では、産業界も教育界も大きな打撃を受けたが、復興に向け努力するとともに、これを教訓として、震災に負けない強い町づくり、人づくりを進めていく必要がある。本日の総会でご意見・ご指導をいただきたい。」

次に、西澤会長を議長として、事務局から6議案が提案され、審議の結果、各議案とも原案どおり承認されました(承認議案は会員企業・学校等に配布済み)。

本年度の役員のみ紹介いたします。

会 長 西澤 宏繁(留任)

副 会 長 久保村昭衛(留任)

同 金子 昌男(留任)

同 小林 薫(新任)

(東京都立北豊島工業高等学校長)

理 事 長 大原 正行(留任)

常任理事 直原 裕(留任)

同 藤本 龍夫(新任)

(都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長)

総会終了後、産業界会員功労者(永年会員)の表彰が行われました。

本年度の表彰企業は次の2社です。

○(株)エイコー(葛飾区・土屋 英一会長 出席)

○(株)東京都民銀行(港区・佐藤 元信参与 出席)

西澤会長から各社に感謝状と記念品が手渡されました。また2社の受賞者から企業の紹介と感謝の意が述べられました。



授賞後挨拶する佐藤氏(左)と土屋氏(右)

## 平成23年度 新会員校の紹介

東京都立王子総合高等学校  
全日制 総合学科 単位制

〒114-0023 東京都北区滝野川3-54-7  
TEL 03-3576-0602 FAX 03-3576-0615  
都営地下鉄三田線 西巣鴨から徒歩6分  
JR池袋駅東口からバス15分徒歩1分

本校は、平成23年4月に開校いたしました。現在は、1年生だけの初々しい学校です。

キャッチフレーズ「Design Your Dream」(自己の生き方を真剣に考え将来を切り開く力をつける学校)。

人生には、人それぞれに様々な道のりがあります。本校は総合学科高校の特色を生かし、自己の進路への自覚を深め、自ら夢を描き、その実現に向かって意欲的に計画し実行する行動力と態度を育てていきます。本校独自の指定科目である「人間と技術と環境」では、各系列(「メディア・ネットワーク」「ビジネス・コミュニケーション」「工業・デザイン」「伝統文化・工芸」「スポーツ・健康」の5系列)の基礎・基本を学習して系列や科目選択につなげます。また、100を超える多様な選択科目を設定し、その中から希望する進路に応じて自分だけの時間割で学ぶことができます。キャリア教育を充実させ、将来の夢の実現を応援する学校です。

### 【学校の特徴】

○基礎的な学力を身に付けるとともに、思考力・判断力・表現力を高めていく授業を行います。

○「産業社会と人間」の履修を中心として、学校生活全体を通してキャリア教育に取り組みます。

○日本の伝統・文化を継承していくため「伝統文化理解(礼法・茶道・華道・日本舞踊・和楽器・伝統工芸)」の授業を充実させていきます。



現在建築中 来年秋完成予定！！

## 平成23年度「作文コンクール」作文募集中

作文の内容：中学校の技術・家庭科、高等学校、専修学校、高等専門学校及び短期大学等における産業教育に関する学習を通して体験したことについて述べたもの。勤労に係わる体験的な学習によって学び得た人生観・職業観等、自己の将来に対する考え方や心構え等について述べたもの。

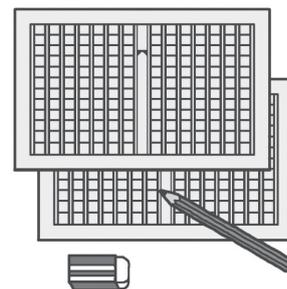
応募資格：東京都内の中学校に在籍する生徒  
高等学校、専修学校、高専及び短大等に在籍し、産業教育に関する教科・科目を履修している生徒及び学生。

応募方法等：400字詰め原稿用紙(A4判)を使用し、4～6枚、たて書きとする。  
パソコン入力による原稿も可(20字×20行) たて書きとする。

応募者数は校内において厳選し、1校10名以内とする。

応募期限：平成23年9月16日(金) 入選者は11月中旬に関係学校長へ連絡する。

※ 詳しくは各学校に配布してある「応募要項」を参照してください。



## 「第21回 全国産業教育フェア鹿児島大会」のお知らせ - 新たな出会い 本物選び 未来へ挑戦する産業教育フェア -

- 期 日：平成23年12月16日(土)～17日(日)  
 ○会 場：かごしま県民交流センター 他  
 ○開催内容：①かごしま県民交流センター  
 式典・講演(記念講演、知的財産教育シンポジウム等)  
 作品展示(全国の高校生の作品展示等)  
 展示即売(鹿児島県内の特産品等の展示即売)  
 発表会(作品・研究発表、意見・体験発表等)  
 コンテスト(フラワーアレンジメントコンテスト、クッキングコンテスト、ファッションショー等)  
 体験コーナー(マイコンカー、キッズビジネスタウン等)  
 ②ドルフィンポート  
 展示即売(鹿児島県内の学校生産物等の展示即売)  
 農業体験コーナー(寄せ植え体験、搾乳体験等)  
 ③鹿児島本港区北埠頭  
 実習船乗船体験  
 ④鹿児島県総合体育センター体育館  
 全国高等学校ロボット競技大会

## 平成23年度「わくわく ときどき 夏休み工作スタジオ」のご案内

小・中学生にもものづくりの面白さや達成感を体験してもらい、将来のものづくり産業を支える人材を早期から育成することをねらいとして今年も実施されます。

- 主 催：東京都教育庁指導部高等学校教育指導課  
 ○対 象：小学生・中学生対象講座、小学生対象親子ものづくり教室  
 ○申込み：事前に往復ハガキで申し込む。  
 ○参加費：講座により1,000～2,500円かかります。  
 ○会場校と問合せ先

	会 場 校	問い合わせ		会 場 校	問い合わせ
1	都立葛西工業高校	03-3653-4111	11	都立練馬工業高校	03-3932-9251
2	都立墨田工業高校	03-3631-4928	12	都立多摩工業高校	042-551-3435
3	都立科学技術高校	03-5609-0227	13	都立杉並工業高校	03-3394-2471
4	都立蔵前工業高校	03-3862-4488	14	都立多摩科学技術高校	042-381-4164
5	都立荒川工業高校	03-3802-1178	15	都立田無工業高校	042-464-2225
6	都立足立工業高校	03-3899-1196	16	都立八王子桑志高校	042-663-5970
7	都立工芸高校	03-3814-8755	17	都立総合工科高校	03-3483-0204
8	都立六郷工科高校	03-3737-6565	18	都立府中工業高校	042-362-7237
9	都立北豊島工業高校	03-3963-4331	19	都立町田工業高校	042-791-1035
10	都立中野工業高校	03-3385-7445			

※講座の詳しい内容については、各高校もしくは「わくわくときどき夏休み工作スタジオ」係  
 (TEL 03-3342-8834)にお問合せください。

## 東京都産業教育振興会 ホームページアドレス <http://www.tosanshin.org/>

### 事務局より

- 平成23年度「会報」第140号をお届けいたします。  
 会報の編集、発行に際してご協力いただきました皆様に厚くお礼を申し上げます。  
 ○東京都の産業教育をさらに飛躍させるために活動するとともに、情報等をお知らせしています。会員の皆様からのご感想、ご意見等をお寄せください。

発行 東京都産業教育振興会  
 〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1  
 東京都教育庁都立学校教育教育部  
 高等学校教育課内  
 電話 03-5320-6729  
 FAX 03-5388-1727  
 印刷 株式会社小薬印刷所

再生紙を使用しています